

## 奥伊吹観光株式会社

代表取締役 草野 丈太氏

顧客目線のサービスと地域資源の有効活用で  
環境と人に配慮した、無理のない観光業を展開



### 「雪を資源に」地域の想いを込めたスキー場を開設

草野丈太代表取締役の祖父である草野丈正氏により1970年に開業した奥伊吹スキー場。スキー場がある米原市甲津原は、1927年に積雪量の世界記録11メートル82センチを記録した伊吹山地の北部に位置する豪雪地帯で、このスキー場の開設には「雪を資源に地域を活性化したい」という地元の想いが込められていました。

'70年代後半からのスキーブームで一気に増えたスキー人口は1990年代をピークに減少、現在のスキー・スノーボード人口は、ピーク時の3分の1まで減って多くのスキー場が経営難に直面しています。

そんな中で、奥伊吹スキー場はすべての施設を自社で運営する家族経営を強みとして、お客様目線で積極的な設備投資を行い、お客様の小さなつぶやきにも柔軟に対応しながら、着実に来場者数を伸ばしてきました。

自然の降雪だけに頼っていると、積雪の少ないシーズンに実績が落ち込んでしまうことが課題でしたが、2007年に人工降雪機を導入して、シーズン中は安定したグレンデコンディションが維持できるようになりました。また、2010年にはオートゲートシステム、2014年にはセンターハウス、2018年には日本最高速リフトを導入して、近年はシーズン中10数万人の来場者を集め、2017年から4年連続ウエザーニュースの全国スキー場人気ランキング1位を獲得しています。

2019年の開業50周年を機に名称を『グランスノー奥伊吹』に変更、2020年には観光庁から「国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業」として、米原市が支援地域の一つに選定されました。

## 稼働率90%を超えるグランピング施設

草野社長は、地域の自然や資源の“有効活用”“再活性化”をテーマに、大規模な建設工事を行うことなく、既存の観光施設など今ある資源を使って地域の魅力を高める施設づくりに取り組んできました。

2006年から指定管理者として米原市の施設『グリーンパーク山東』の運営を受託してきた同社。屋外施設の強化や露天風呂のリニューアルを行うなどして、2019年度は開業以来最高となる138,000人を集客しました。

さらに、スキー場の運営だけではシーズン終了とともに従業員の雇用も終わってしまうため、通年雇用できる仕組みづくりという課題を解決するため、『グリーンパーク山東』にあったゴルフ場（ショートコース）の事業転換を図り、グランピング施設『GLAMP ELEMENT』をオープン。細部までこだわった照明やセレクト家具を配して、「こんな施設に泊まってみたい」と思う空間を演出、グランピングの先駆けとして話題になりました。

アウトドア料理研究家監修による地元食材をふんだんに使ったディナーを、スタッフが準備してプライベートデッキで楽しむようにしています。

また、ラウンジに併設されているバーではアルコールも提供。食事やドリンク、アクティビティの費用はすべて宿泊料金に含んだオールインクルーシブ方式を採用、大人の時間を満喫できる施設になっています。

宿泊予約サイトを通さず、自社予約サイトでの直販だけで90%を超える稼働率を達成、年間売上はゴルフ場の約30倍に飛躍しました。当初は通年雇用できる仕組みづくりが目的でしたが、今では観光業に不可欠な優れた人材を育成する場となっており、新規採用者は『GLAMP ELEMENT』に配属して、接客マナー・スキルを身につけた後、各部署に配属するルールを作り、会社全体の接客力の向上にも注力しています。

草野社長は「原点にあるのは“自分がお客様だったら”どんなサービスを望むかということで、お客様に寄り添ったおもてなしや創意工夫によって非日常を提供することで、満足度の高い施設づくりが可能になる」と考えています。

## 水力発電に着手、“無理のない観光”の実現を目指す

そのほかにも、スキー場の夏季事業として、車やバイク、ドリフト、ジムカーナ愛好者に駐車場を走行会場として提供す

る『奥伊吹モーターパーク』を運営しています。2010年にはJAF（一社日本自動車連盟）公認を取



得して公式戦が開催されるほか、日本最大級のバイクイベントやドリフト大会、次世代自動車の研究開発会場や大手自動車メーカーの企業研修会場としても利用されています。

2019年5月には休止していた賤ヶ岳リフトの運営を引き継ぎ、山頂の眺望の改善やヨガやクイズなどのイベントを企画したことで、コロナ禍でも多くの来場者が訪れました。

「雪を資源に」から始まった同社はいつしか、オールシーズン楽しめるレジャー施設へと変貌をとげました。一方でスキー場運営の中で、温暖化による少雪化などに危機感を感じた経験から、「環境リスクの低減」と“エネルギー問題”の両側面を考えるようになった」と草野社長。

そこで2020年2月、関西電力グループと『奥伊吹水力発電合同会社』を設立して、姉川支流に水力発電所の建設に着手、2022年の発電開始を目指すことになりました。現在自社で運営する施設で使用する年間電気使用量を超える電力を確保できる想定があるため、固定買取終了後には自社施設の電力自給化（ゼロエミッション）をはかる構想です。



資源を循環させ、自然への排出をゼロにすることで“無理のない観光”を実現していきたいと考えています。

## Message

「雪を資源に変えたい」「雪しかないという弱みを強みに」という地域住民の想いから始まった、手探りのリゾートづくりは50年を経て、その成果を地域に還元できるようになりました。

雇用を創出し、施設で働きたいと県内外からの移住者が増えたことで、スキー場がある米原市甲津原地域では10年前は0人だった10歳以下の子どもたちが12人に増え、周辺地域活性化の兆しが見えはじめたと感じています。

過疎化が進む地域再生のモデルケースとなれるよう、今後も地域資源を活用した地域の魅力づくりに一層寄与していきたいと思っています。そして、温暖化や少子化、新型コロナウイルスの影響などを見据え、地域と共に持続可能な事業体をこれからも創造していきます。



## 企業データ

本社 / 〒521-0301  
米原市甲津原530  
創業 / 1970年  
従業員 / 19名  
(2020年12月15日現在)  
HP <https://www.glamp-element.jp>



## 企業ポリシー

- 今ある資源を有効活用して地域の魅力を高め、再活性化を図る。
- “自分がお客様なら”というお客様目線を原点にしたおもてなしを実践する。
- 環境と人に配慮した“無理のない観光”で事業の持続化を実現する。